

その他の無脊椎動物リスト<改訂:平成25年>

1. 貝類

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前カテゴリー	環境省カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	原始紐舌	ヤマタニシ	クチキレムシオイ <i>Cipangocharax biexcisus</i>	主要な生息地が1か所のみである。	絶滅危惧I類	絶滅危惧I類	
絶滅危惧IA類	真正有肺類	オカミミガイ	クリイロコミミガイ <i>Laemodonta siamensis</i>	河口域内湾干潟の生息域が減少しており、生息個体数も少ない。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IA類	柄眼	キセルガイ	ピントノミギセル <i>Hemizaptyx pinto</i>	主要な生息地が1~3か所のみである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	柄眼	キセルガイ	ナミコギセル <i>Euphaedusa tau</i>	主要な生息地が1~3か所のみである。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	柄眼	キセルガイ	カスガコギセル <i>Pictophaedusa hungerfordiana</i>	過去の採集記録はあるが、近年生息が確認されていない。近い将来絶滅のおそれ非常に強い。	絶滅危惧I類	絶滅危惧I類	
絶滅危惧IA類	柄眼	オナジマイマイ	モリスキオオベソマイマイ <i>Aegista intonsa</i>	主要な生息地が1~3か所のみである。	絶滅危惧I類	絶滅危惧I類	
絶滅危惧IB類	原始紐舌	ヤマタニシ	トウゲンムシオイ <i>Cipangocharax kiuchii</i>	数か所から報告されているが、生息範囲が狭く、生息密度も低い。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	原始紐舌	ヤマタニシ	アツブタムシオイ <i>Awalycaeus abei</i>	数か所から報告されているが、いずれも生息密度は極めて低い。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	タマキビ型新生腹足	カワザンショウ	ホラアナゴマオカチグサ <i>Cavernacmella kuzuensis</i>	生息環境が特殊で、確認されている地域が少ない。環境省ランクに準拠する。	絶滅危惧II類	絶滅危惧I類	
絶滅危惧IB類	真正有肺類	オカミミガイ	シイノミミミガイ <i>Cassidula plecotrematoides japonica</i>	確認されている生息地が極めて少なく、環境の改変により絶滅の危険性が高い。環境省ランクに準拠する。	準絶滅危惧	絶滅危惧I類	
絶滅危惧IB類	柄眼	キバサナギガイ	ナガナタネ <i>Columella edentula</i>	確認されている生息地が限定されており、生息個体数が少ない。	絶滅危惧I類	地域個体群	
絶滅危惧IB類	柄眼	キセルガイモドキ	ホソキセルガイモドキ <i>Mirus rugulosus</i>	分布範囲が狭く主要な生息地が限られ、生息個体数も減少している。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IB類	柄眼	キセルガイ	クロチビギセル <i>Tyrannophaedusa aulacophora</i>	生息地が極めて限定されている。ホソヒメギセルの一形との見方もあり、検討が必要である。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IB類	柄眼	キセルガイ	シンチュウギセル <i>Vitriphaedusa aenea</i>	確認されている生息地が極めて限定されており、生息個体数が少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧I類	
絶滅危惧IB類	柄眼	キセルガイ	アズママルクチコギセル <i>Pictophaedusa masaoi</i>	確認されている生息地が極めて限定されており、生息個体数が少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧I類	
絶滅危惧IB類	柄眼	キセルガイ	ヒロクチコギセル <i>Reinia variegata</i>	確認されている生息地が極めて限定されており、生息個体数が少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧I類	
絶滅危惧IB類	柄眼	パツラマイマイ	パツラマイマイ <i>Discus pauper</i>	過去の採集記録はあるが、近年生息が確認されていない。すでに絶滅した可能性もあるが、判断は困難である。	絶滅危惧I類	地域個体群	
絶滅危惧IB類	柄眼	コウラナメクジ	キイロナメクジ <i>Limax flavus</i>	過去の採集記録はあるが、近年生息が確認されていない。すでに絶滅した可能性もあるが、判断は困難である。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	柄眼	オオコウラナメクジ	ヤマコウラナメクジ <i>Nipponolimax monticola</i>	過去の採集記録はあるが、その生息地が消失したため生息が確認できない状態にある。	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IB類	柄眼	オナジマイマイ	カタマメマイマイ <i>Lepidopisum verrucosum</i>	確認されている生息地が極めて限定されており、近年生息が確認されていない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前カテゴリー	環境省カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IB類	柄眼	オナジマイマイ	ケショウマイマイ <i>Trishoplita optima</i>	生息地が飛び地的に分布し、生息個体数が少ない。徳島県の固有種であり、環境省ランクに準拠する。	絶滅危惧II類	絶滅危惧I類	
絶滅危惧IB類	柄眼	ナンバンマイマイ	トサビロウドマイマイ <i>Nipponochloritis tosanus</i>	確認されている生息地が限定されており、生息個体数が少ない。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧II類	アマオブネガイ	アマオブネ	ヒロクチカノコガイ <i>Neripteron sp. A</i>	河口域内湾干潟の生息域が減少しており、減少傾向にあると思われる。	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	
絶滅危惧II類	原始紐舌	ヤマタニシ	コウツムシオイ <i>Cipangocharax akioi</i>	分布範囲が狭く、生息地が限定されている。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧II類	原始紐舌	ゴマガイ	マルクチゴマガイ <i>Diplommatina circumstomata</i>	分布範囲が亜高山帯から高山帯に限られ、確認されている生息地も少ない。	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	
絶滅危惧II類	吸腔類（オニツノガイ上科）	キバウミニナ	カワアイ <i>Cerithidea (Cerithideopsis) djadjariensis</i>	生息個体数が少なく、生息環境の悪化により減少傾向にあると思われる。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧II類	吸腔類（オニツノガイ上科）	ウミニナ	イボウミニナ <i>Batillaria zonalis</i>	生息個体数が少なく、生息環境の悪化により減少傾向にあると思われる。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧II類	真正有肺類	オカミミガイ	ナギサノシタタリガイ <i>Microtralia acteocinoides</i>	確認されている生息地が極めて限定されており、生息に適した環境が少ない。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧II類	柄眼	キバサナギガイ	ナタネキバサナギガイ <i>Vertigo eogea eogea</i>	生息状況を把握するだけの情報が集積できていないが、現在確認されている生息地は限定されている。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧II類	柄眼	キセルガイ	アベギセル <i>Pinguiphaedusa ignobilis</i>	徳島県固有種。数か所で生息が確認されているものの、生息個体数が少なく、生息範囲も限られる。	準絶滅危惧	絶滅危惧II類	
絶滅危惧II類	柄眼	キセルガイ	デーブルギセル <i>Tyrannophaedusa dalli</i>	徳島県固有種。生息地が限定されている。	準絶滅危惧	絶滅危惧II類	
絶滅危惧II類	柄眼	ナタネガイ	エゾナタネ <i>Punctum boreale</i>	生息状況を把握するだけの情報が集積できていないが、現在確認されている生息地は限定されている。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧II類	柄眼	オナジマイマイ	ハダカケマイマイ <i>Aegista aemula hadaka</i>	生息状況を把握するだけの情報が集積できていないが、現在確認されている生息地は限定されている。	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	
絶滅危惧II類	柄眼	オナジマイマイ	タシママイマイ <i>Aegista cavitectum</i>	分布が局所的で、いずれの生息地でも多産はしていない。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧II類	柄眼	オナジマイマイ	ミヤマオオベソマイマイ <i>Aegista proba goniosomoides</i>	剣山周辺他で確認されているが、生息範囲は狭く、各地での生息個体数も少ない。	準絶滅危惧	絶滅危惧II類	
準絶滅危惧	マルスダレガイ	マルスダレガイ	シオヤガイ <i>Anomalodiscus squamosus</i>	県南には広く分布するが、生貝が採集される場所は極めて少ない。		準絶滅危惧	
準絶滅危惧	マルスダレガイ	ニッコウガイ	ユウシオガイ <i>Moerella rutila</i>	県内の3か所で確認されており、そのうち2か所では生息個体数が極めて少ない。		準絶滅危惧	
準絶滅危惧	吸腔類（オニツノガイ上科）	キバウミニナ	ヘナタリ <i>Cerithidea (Cerithideopsis) cingulata</i>	個体数は目に見えて減っておらず、県内にはかなりの個体数が分布する。	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	吸腔類（オニツノガイ上科）	ウミニナ	ウミニナ <i>Batillaria multiformis</i>	個体数は目に見えて減っておらず、県内にはかなりの個体数が分布する。	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前カテゴリー	環境省カテゴリー	特記事項
準絶滅危惧	吸腔類（オニツノガイ上科）	キバウミニナ	フトヘナタリ <i>Cerithidea (Cerithidea) rhizophorarum</i>	現在は普通に見られるが、河口域内湾干潟の生息域が減少しており、減少傾向にあると思われる。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	タマキビ型新生腹足	カワザンショウ	ムシヤドリカワザンショウ <i>Assiminea parasitologica</i>	生息に適した環境が限られている。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	タマキビ型新生腹足	ミズゴマツボ	ミズゴマツボ <i>Stenothyra japonica</i>	県内で生貝が確認されているが、個体数は少ない。水質汚染等の環境悪化によって絶滅する危険性がある。		絶滅危惧II類	
準絶滅危惧	真正有肺類	オカミミガイ	ウスコミミガイ <i>Laemodonta exaratoides</i>	数が所で生貝が確認されているが、生息地は多くなく、生息個体数も少ない。		準絶滅危惧	
準絶滅危惧	柄眼	ナタネガイモドキ	ナタネガイモドキ <i>Pyramidula conica</i>	生息地が飛び地的に分布し、生息個体数が少ない。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	柄眼	キセルガイ	モリスサキギセル <i>Tyrannophaedusa aulacophora morisakii</i>	生息範囲が狭い。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	柄眼	ベッコウマイマイ	サダタカキビ <i>Trochochlamys xenica</i>	生息個体数が少ない。	準絶滅危惧	情報不足	
準絶滅危惧	柄眼	ベッコウマイマイ	カサネシタラ <i>Sitalina insignis</i>	生息個体数が少ない。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	柄眼	オオコウラナメクジ	オオコウラナメクジ <i>Nipponarion carinatus</i>	生息個体数が少ない。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	柄眼	ナメクジ	イボイボナメクジ <i>Granulilimax fuscicornis</i>	生息個体数が少ない。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	柄眼	オナジマイマイ	ギュリキマイマイ <i>Euhadra eoa gulicki</i>	本県では分布範囲が限定され、生息個体数が少ない。	準絶滅危惧		
留意	マルスダレガイ	シオサザナミ	オチバガイ <i>Gari (Psammotaena) virescens</i>	那賀川河口域で採集されているが、十分な調査が行われておらず情報が不足している。		準絶滅危惧	
留意	原始紐舌	ゴマガイ	キュウシュウゴマガイ <i>Diplonmatina (Sinica) tanegashimae kyushuensis</i>	本県では分布範囲が限定され、生息個体数が少ない。	留意		
留意	吸腔類（オニツノガイ上科）	オニツノガイ	コゲツノブエ <i>Cerithium coralium</i>	ももとの個体数が少なく、情報が不足している。南方系である。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	
留意	アメフラシ	アメフラシ	ウミナメクジ <i>Petalifera punctulata</i>	1か所で採集されているが、十分な調査が行われておらず情報が不足している。			
留意	柄眼	キセルガイ	ニクイロギセル <i>Placeophaedusa expansilabris carnea</i>	徳島県の固有種である。	留意		

改訂前掲載種数

改訂後掲載種数

絶滅	0種	絶滅	0種
		野生絶滅	0種
絶滅危惧I類	16種	絶滅危惧IA類	6種
絶滅危惧II類	19種	絶滅危惧IB類	16種
準絶滅危惧	15種	絶滅危惧II類	13種
情報不足	0種	準絶滅危惧	15種
地域個体群	0種	留意	5種
留意	2種		
合計	52種	合計	55種
		削除	3種

その他の無脊椎動物リスト<改訂:平成25年>

2. 甲殻類

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IB類	十脚	スナガニ	シオマネキ <i>Uca arcuata</i>	本種が巣穴を掘ることができる基質が広がる干潟は多くはなく、生息環境が改善しているとは言い難い。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
準絶滅危惧	十脚	ヌマエビ	ヤマトヌマエビ <i>Caridina japonica</i>	樹冠に覆われる河川に生息するが、河川改修等で生息域が減少している。	準絶滅危惧		
準絶滅危惧	十脚	ヌマエビ	ヒメヌマエビ <i>Caridina serratirostris</i>	個体数も少なく、主生息域である下流感潮域では河川改修が行われ、生息環境が劣化しつつある。	準絶滅危惧		
準絶滅危惧	十脚	コブシガニ	マメコブシガニ <i>Philyra pisum</i>	河口を中心に分布している普通種で、直ちに絶滅が危惧される状況にはない。	絶滅危惧I類		
準絶滅危惧	十脚	ベンケイガニ	ユビアカベンケイガニ <i>Parasesarma tripectinis</i>	広範囲に分布する種類と考えられ、直ちに絶滅が危惧される状況にはない。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	十脚	ベンケイガニ	オオユビアカベンケイガニ <i>Parasesarma affine</i>	広範囲に分布する種類と考えられ、直ちに絶滅が危惧される状況にはない。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	十脚	ベンケイガニ	フタバカクガニ <i>Perisesarma bidens</i>	広範囲に分布する種類と考えられ、直ちに絶滅が危惧される状況にはない。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	十脚	ベンケイガニ	ベンケイガニ <i>Sesarmops intermedius</i>	広範囲に分布する種類と考えられ、直ちに絶滅が危惧される状況にはない。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	十脚	ベンケイガニ	アカテガニ <i>Chiromantes haematocheir</i>	陸生のカニであり、幼生のふ化時に抱卵雌が河川下流部～海岸の水際に行く経路が道路や護岸等で遮断されている。	準絶滅危惧		
準絶滅危惧	十脚	モクズガニ	ハマガニ <i>Chasmagnathus convexus</i>	広範囲に分布する種類と考えられ、直ちに絶滅が危惧される状況にはない。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	十脚	モクズガニ	ヒメアシハラガニ <i>Helice japonica</i>	広範囲に分布する種類と考えられ、直ちに絶滅が危惧される状況にはない。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	十脚	モクズガニ	トリウミアカイソモドキ <i>Sestrostoma toriumii</i>	函館から香港の沿岸で、個体数は少ないながら広範囲に分布する種類と考えられ、直ちに絶滅が危惧される状況にはない。	絶滅危惧II類		
準絶滅危惧	十脚	スナガニ	ハクセンシオマネキ <i>Uca lactea</i>	本種が巣穴を掘ることができる基質が広がる干潟は多くはなく、生息環境が改善しているとは言い難い。	準絶滅危惧	絶滅危惧II類	

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
留意	十脚	アナジャコ	ナルトアナジャコ <i>Upogebia narutensis</i>	アナジャコ類については普通種との見分けが十分になされていないので、再検討が必要である。	絶滅危惧I類		
留意	十脚	ヘイケガニ	ヘイケガニ <i>Heikea japonica</i>	ふつう、本種の主生息域は沖合にあり、底引き網で混獲される。他の海域では局所的に泥低に分布すると考えられているが、十分な調査が行われておらず情報が不足している。	絶滅危惧I類		
留意	十脚	オサガニ	ノコハオサガニ <i>Macrophthalmus latreillei</i>	数は少ないが各地で発見されており、南方からの来遊種である可能性も高い。	絶滅危惧I類		

改訂前掲載種数

改訂後掲載種数

絶滅	0種	絶滅	0種
		野生絶滅	0種
絶滅危惧I類	6種	絶滅危惧IA類	0種
絶滅危惧II類	9種	絶滅危惧IB類	1種
準絶滅危惧	7種	絶滅危惧II類	0種
情報不足	0種	準絶滅危惧	12種
合計	22種	留意	3種
		合計	16種
		削除	6種

その他の無脊椎動物リスト<改訂:平成25年>
3. 刺胞動物類

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
準絶滅危惧	イシサンゴ	ミドリイシ	エダミドリイシ <i>Acropora tumida</i>	海陽町竹ヶ島と牟岐町牟岐大島で確認され、竹ヶ島では四国内でも有数の大規模な群落が見られる。台風の影響で群落の一部が消失したが、残った群落は良好に生育している。南方系種のスギノキミドリイシが増加傾向で、場所によっては直接的な競争関係にあり、生育環境が脅かされている。			
留意	イシサンゴ	オオトゲサンゴ	オオタバサンゴ <i>Blastomussa wellsi</i>	牟岐町牟岐大島チエバの下と呼ばれているダイビングスポットで1群体確認されたが、オニヒトデの食害にあい斃死したため、現在、県内での生息情報はない。造礁サンゴの中では生息水深が深く稀種で、現状では判断できないため留意とした。			

改訂前掲載種数

改訂後掲載種数

絶滅	0種	絶滅	0種
		野生絶滅	0種
		絶滅危惧 I A類	0種
絶滅危惧 I 類	0種	絶滅危惧 I B類	0種
絶滅危惧 II 類	0種	絶滅危惧 II 類	0種
準絶滅危惧	0種	準絶滅危惧	1種
情報不足	0種	留意	1種
合計	0種	合計	2種
		削除	0種

その他の無脊椎動物リスト<改訂:平成25年>

4. クモ類

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	クモ	ホラヒメグモ	タツホラヒメグモ <i>Nesticus longiscapus draco</i>	生息環境悪化により、生息記録以降確認情報が無い。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IA類	クモ	ナミハグモ	リュウノイワヤナミハグモ <i>Cybaeus ryunoiwayaensis</i>	生息環境悪化により、生息記録以降確認情報が無い。			
絶滅危惧IB類	クモ	タマゴグモ	クスミダニグモ <i>Gamasomorpha kusumii</i>	生息記録以降の確認情報が無い。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧IB類	クモ	ハウシグモ	ドウシグモ <i>Doosia japonica</i>	生息記録以降の確認情報が無い。	絶滅危惧I類	情報不足	
準絶滅危惧	クモ	ジグモ	ワスレナグモ <i>Calommata signata</i>	生息環境の悪化による個体数減少が見られる。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	クモ	トタテグモ	キノボリトタテグモ <i>Conothele fragaria</i>	生息環境の悪化による個体数減少が見られる。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	クモ	トタテグモ	キシノウエトタテグモ <i>Latouchia typica</i>	県内では徳島市中央公園で確認されているのみである。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
留意	クモ	マシラグモ	バンドウマシラグモ <i>Masirana bandoi</i>	生息地が限定されている本県固有種である。	情報不足		
留意	クモ	ホラヒメグモ	アワホラヒメグモ <i>Nesticus longiscapus awa</i>	生息地が限定されている本県固有種である。	情報不足		
留意	クモ	ホラヒメグモ	キウチホラヒメグモ <i>Nesticus longiscapus kiuchii</i>	本県固有種で、生息地が限定されている。	情報不足		
留意	クモ	ホラヒメグモ	ムギホラヒメグモ <i>Nesticus sonei</i>	生息地が限定されている本県固有種である。	情報不足		
留意	クモ	ヒメグモ	ツクネグモ <i>Phoroncidia pilula</i>	生息確認が極めて少なく希少な種である。	情報不足		
留意	クモ	ヒメグモ	ハンゲツオスナキグモ <i>Steatoda cingulata</i>	生息密度が低く希少な種となっている。	情報不足		
留意	クモ	コガネグモ	キジロオヒキグモ <i>Arachnura logio</i>	生息記録以降に確認情報が無く極めて珍種である。	情報不足		
留意	クモ	コガネグモ	ビジョオニグモ <i>Araneus mitificus</i>	生息記録以降の確認情報が無い。	情報不足		
留意	クモ	コガネグモ	ニシキオニグモ <i>Araneus variegatus</i>	生息記録以降の確認情報が無い。	情報不足		
留意	クモ	コガネグモ	ハラビロミドリオニグモ <i>Araneus viridiventris</i>	生息地が限定されている。	情報不足		
留意	クモ	コガネグモ	スズミグモ <i>Cyrtophora moluccensis</i>	生息地が限られ、特に近年の確認情報が少ない。	情報不足		

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前カテゴリー	環境省カテゴリー	特記事項
留意	クモ	コガネグモ	ムツトゲイセキグモ <i>Ordgarius sexspinosus</i>	本県では1個体のみ確認で、以降情報が無い珍種である。	情報不足		
留意	クモ	コガネグモ	サカグチトリノフンダマシ <i>Paraplectana sakaguchii</i>	生息記録以降、特に近年の確認情報が無い。	情報不足		
留意	クモ	ササグモ	シマササグモ <i>Oxyopes macilentus</i>	生息記録以降の確認情報が無い。	情報不足		
留意	クモ	アシダカグモ	ツユグモ <i>Micrommata virescens</i>	生息記録以降の確認情報が無い。	情報不足		
留意	クモ	カニグモ	カトウツケオグモ <i>Phrynarachne katoi</i>	本県で3個体のみ確認されているだけの希少な種である。	情報不足		
留意	クモ	カニグモ	フノジグモ <i>Synaema globosum</i>	どの生息地においても密度が低く希少である。	情報不足		

改訂前掲載種数

改訂後掲載種数

絶滅	0種	絶滅	0種
		野生絶滅	0種
		絶滅危惧ⅠA類	2種
絶滅危惧Ⅰ類	3種	絶滅危惧ⅠB類	2種
絶滅危惧Ⅱ類	0種	絶滅危惧Ⅱ類	0種
準絶滅危惧	3種	準絶滅危惧	3種
情報不足	18種	留意	17種
地域個体群	0種		
留意	1種		
合計	25種	合計	24種
		削除	2種

その他の無脊椎動物リスト<改訂:平成25年>

5. ザトウムシ類

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前カテゴリー	環境省カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IA類	ザトウムシ	マメザトウムシ	アワマメザトウムシ <i>Acropsopilio boopis</i>	剣山で一度見つかっているのみで、その後35年以上確認されていない。調査不足でもあるが、国内で知られるのはこのみである。	準絶滅危惧	情報不足	
絶滅危惧II類	ザトウムシ	ミツヅメザトウムシ	イヤニセタテヅメザトウムシ <i>Metanippononychus iyanus</i>	徳島県固有種。剣山周辺に生息確認地があるが少ない。	準絶滅危惧		
絶滅危惧II類	ザトウムシ	ブラシザトウムシ	マキノブラシザトウムシ <i>Sabacon makinoi</i>	剣山の山地草原が四国では唯一の既知生息地となっている。	準絶滅危惧		
準絶滅危惧	ザトウムシ	マザトウムシ	ゴホントゲザトウムシ <i>Himalphalangium spinulatum</i>	阿波の土柱で生息が確認され、現在唯一の既知生息地である。生息地は他県でも非常に局地的で、かつ人里近くであるため人為的改変を受けやすい。		情報不足	
準絶滅危惧	ザトウムシ	カワザトウムシ	ヒトハリザトウムシ <i>Psathyropus tenuipes</i>	自然海岸を中心に数か所で生息を確認している。市街地に近い生息地では注意が必要である。	留意	準絶滅危惧	
留意	ザトウムシ	タテヅメザトウムシ	ヒメタテヅメザトウムシ <i>Yuria pulcra</i>	県南部の数か所で確認されるのみである。	留意		
留意	ザトウムシ	ミツヅメザトウムシ	トミシマニセタテヅメザトウムシ <i>Metanippononychus tomishimai</i>	剣山周辺の標高700m以上に生息する。	留意		
留意	ザトウムシ	イトクチザトウムシ	カブトザトウムシ <i>Dendrolasma parvulum</i>	県内のブナ帯に隔離的に分布している。	留意		

改訂前掲載種数

改訂後掲載種数

絶滅	0種	絶滅	0種
		野生絶滅	0種
絶滅危惧I類	0種	絶滅危惧IA類	1種
		絶滅危惧IB類	0種
絶滅危惧II類	0種	絶滅危惧II類	2種
準絶滅危惧	3種	準絶滅危惧	2種
情報不足	0種	留意	3種
地域個体群	0種		
留意	4種		
合計	7種	合計	8種
		削除	0種

その他の無脊椎動物リスト<改訂:平成25年>

6. ヤスデ類

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
留意	オビヤスデ	オビヤスデ	リュウオビヤスデ <i>Epanerchodus acuticlivus</i>	阿南市の洞窟でのみ生息が確認されている。周辺地域に生息している可能性はあるが、生息状況を把握できるだけの情報がない。	情報不足	情報不足	
留意	オビヤスデ	オビヤスデ	ホシオビヤスデ <i>Epanerchodus aster</i>	阿南市の洞窟でのみ生息が確認されている。周辺地域に生息している可能性はあるが、生息状況を把握できるだけの情報がない。	情報不足	情報不足	

改訂前掲載種数

改訂後掲載種数

絶滅	0種	絶滅	0種
		野生絶滅	0種
絶滅危惧Ⅰ類	0種	絶滅危惧ⅠA類	0種
		絶滅危惧ⅠB類	0種
絶滅危惧Ⅱ類	0種	絶滅危惧Ⅱ類	0種
準絶滅危惧	0種	準絶滅危惧	0種
情報不足	2種	留意	2種
地域個体群	0種		
留意	0種		
合計	2種	合計	2種
		削除	0種

その他の無脊椎動物リスト<改訂:平成25年>
掲載種数合計

改訂前掲載種数		改訂後掲載種数	
絶滅	0種	絶滅	0種
		野生絶滅	0種
絶滅危惧Ⅰ類	25種	絶滅危惧ⅠA類	9種
		絶滅危惧ⅠB類	19種
絶滅危惧Ⅱ類	28種	絶滅危惧Ⅱ類	15種
準絶滅危惧	28種	準絶滅危惧	33種
情報不足	20種	留意	31種
地域個体群	0種		
留意	7種		
合計	108種	合計	107種
		削除	11種

リストの改訂によって削除した種(その他の無脊椎動物 : 11種)

貝類

カテゴリ	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前 カテゴリ	環境省 カテゴリ	特記事項
—	アマオブネガイ	アマオブネガイ	イシマキガイ <i>Clithon retropictus</i>	県内すべての河川の下流域に分布する普通種である。	絶滅危惧II類		
—	吸腔	フジツガイ	ホラガイ <i>Charonia tritonis</i>	南方性の機会来遊種である。	準絶滅危惧		
—	吸腔	アッキガイ	アカニシ <i>Rapana venosa</i>	潮間帯のカキ帯などに稚貝が高密度に発生し、食用となる普通種である。	準絶滅危惧		

甲殻類

カテゴリ	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前 カテゴリ	環境省 カテゴリ	特記事項
—	十脚	テナガエビ	ヒラテテナガエビ <i>Macrobrachium japonicum</i>	南方から幼生が来遊している可能性があり、県内河川では個体数はやや増加傾向にある。	準絶滅危惧		
—	十脚	ワタリガニ	ノコギリガザミ <i>Scylla serrata</i>	現在は、アミメノコギリガザミ、アカテノコギリガザミ、トゲノコギリガザミの3種に分類されており、南方から幼生が来遊する種である。温暖化に伴い河口で漁獲される機会が増えている。	絶滅危惧I類		
—	十脚	モクズガニ	モクズガニ <i>Eriocheir japonicus</i>	県下河川に広く分布する普通種であることがわかっている。移動拡散能力も高く、遺伝的にも国内で差が小さいことが判明している。	絶滅危惧II類		
—	十脚	モクズガニ	ケフサイソガニ <i>Hemigrapsus penicillatus</i>	沿岸の転石地に広く分布する普通種と考えられる。	絶滅危惧II類		
—	十脚	スナモグリ	ニホンスナモグリ <i>Nihonotrypaea japonica</i>	普通種。離岸堤内側は一律に砂質となっていることが多く、砂質にはスナモグリ類が多く見られるので生息数も十分に多いと考える。	準絶滅危惧		
—	十脚	アナジャコ	ヨコヤアナジャコ <i>Upogebia yokoyai</i>	場所によってはアナジャコよりも本種の方が多く、また、南方まで分布する。普通種。	準絶滅危惧		

クモ類

カテゴリ	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前 カテゴリ	環境省 カテゴリ	特記事項
—	クモ	フクログモ	バンドウフクログモ <i>Clubiona bandoi</i>	生息個体数の明らかな減少は見られない。	情報不足		
—	クモ	マシラグモ	ゼンジョウマシラグモ <i>Leptoneta zenjoensis</i>	生息個体数の明らかな減少は見られない。	留意		